

人生をどう生きるかを考えて選んだ道

～我が道～ 『農業』

私は道職員として11年間、農業関係の仕事に従事してきましたが、公務員として組織に依存し安定した境遇のまま人生を過ごしていくことに疑問を感じるが多くなりました。その頃に夫婦2人で何ができるか、人生をどう生きるかを話し合い「何のために生きているんだろうか?」「このままなんとなく一生を過ごしたらきつと後悔する!」「精一杯生きたい、失敗してもいい、新たなことに挑戦しよう!」「太陽の下で働きたい!」と、考えた末に出した結論が「農業」でした。

新規就農3年目の現在は経営の基盤となるビニールハウスで化学肥料や農薬の使用を極力抑えた特別栽培農産物としてミニトマト、カラーピーマンを栽培し赤井川村の「(有)とさんご農産センター」に出荷しています。露地の畑では更に地球環境に配慮した農業をめざして化学肥料や堆肥、農薬などを一切使用しない無肥料・無農薬の自然栽培を実践し、アスパラガス、ニンニク、じゃがいも、さつまいもなど様々な野菜を栽培しています。

「無肥料で野菜が作れるの?」と聞かれることがありますが、「無肥料で栽培 → 作物が養分を吸収 → 土の栄養が無くなる」と、普通に考えればその通りかも知れません。当農園では、緑肥作物や作物残渣、雑草を鋤き込んで土壌中の栄養分を補っていますが、雑草があることで土中には多くの根が張り、その雑草の葉や根が分解して養分になり、また、雑草には様々な虫たちが集まり、それらの死骸やフンが土壌中の養分になっていくと考えています。化学肥料の多用で土壌のバランスが崩れて作物がミネラル分を吸収できず、有益な微生物の活動が停滞して養分を作り出せない状況になることがあります。土壌中の微生物が活動できる環境であれば、最低限作物が必要な栄養分は存在しているはずで、実際にほとんどの森林は人間が肥料を与えることなく、落ち葉や動植物の死骸、フンなどにより十分な養分を取り入れて毎年緑いっぱいの状態になりますし、雑草も無肥料で青々と生い茂っています。ニュースなどで「ど根性野菜」としてアスファルトの亀裂から野菜が育った様子がでますが、それらも決して肥料などを与えていないはずで。

「農業をやる!」と言ったときに何人もの方から「公務員を辞めるなんてもったいない」と言われました。それが世間一般の常識的な考えなのかも知れませんが、自分は「やりたいことにチャレンジしないで公務員のまま過ごす人生の方がもったいない!」と思っていました。このため、無肥料で作物が育たないという常識的な発想ではなく、無肥料でも作物は十分育ち、自然な状態だからこそ元気な作物が育つのではないかと考え、現在、いかに微生物が十分に活動できる環境をとどのえられるかを試行錯誤しているところです。

私利私欲で生きていたり自分勝手な発想・行動をする人間が多いこの世の中、自然界には人間のちっほけな力など到底及ばない大きなエネルギーがあると思います。その自然に逆らわずに自然と共生していくことができるような農業をめざし、多くの方に健康や元気の源をお届けできるよう、夫婦2人で歩んでいきたいと思っています。

赤井川村 いわもと農園 岩本 繁・典子

BE PRESS 付録



夫婦二人で頑張っています



年数回?は息子達もお手伝い



自然に囲まれた「いわもと農園」

「いわもと農園」の農産物は農園での直売やネットショップのほか、円山地区「The Life Stock」さん、小樽市「小樽朝聖クラッセホテル内 農産物直売所」などでお買い求めいただけます。(数量限定)

〒046-0501 赤井川村赤井川 314-1 URL <http://sinsenyasai1.web.fc2.com/>
お問い合わせはメールかFAXをお願いします。 E-mail info@roots5.org FAX (0135) 34-7850